

新しい年度が始まりました！今月は伝記を紹介したいと思います。

『リンカン』 ラッセル・フリードマン 著 金原 瑞人 訳 偕成社 1993年  
＜お勧め年齢＞

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆★ 小高学年★★★ 中学生★★☆  
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

＜本の紹介＞

「リンカン」それはアメリカで最も有名な大統領です。彼は貧しい丸太小屋に生まれ、田舎弁護士から地方政治家、そして大統領へと上り詰めました。けれども彼が有名なのは丸太小屋に生まれながら大統領になったというだけではありません。彼の最も大きな業績は奴隷を解放したということです。1800年代のアメリカ南部では黒人は人としてではなく奴隷という商品として扱われていたのです。けれども、同じ人間でありながら奴隷だからという理由で人ではなく商品として扱うのはおかしいと考えている人たちもアメリカ北部にはいました。奴隷制度を広めようとする南部アメリカの人たちと、奴隷制度に反対する北部アメリカの人たちが奴隷の解放をめぐる南北に分かれて戦ったのが南北戦争です。この戦争は当初すぐに終わると思われていたにもかかわらず4年間続き60万人の人が死にました。リンカンは始め南北のアメリカがひとつになれば、北部にはもちろん奴隷制度を受け入れませんが、南部の奴隷制度はそのまま残しておいてもいいと考えていました。けれども戦いが続くうちに奴隷制度はアメリカの国のあり方に関わる問題だと考え始めたのです。彼は有名な演説でこう言っています。

「人民の、人民による、人民のための政府」

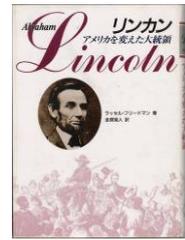
それを地上からなくさないために彼は戦ったのです。

主人公の成功ばかり書いた伝記は全くおもしろくありません。なぜなら、人間というのはいい面ばかりではないし、成功ばかりではないからです。面白い伝記には主人公の苦勞や悩みが描かれています。この本もそんな伝記の1冊です。リンカンの苦勞と悩みに触れるとき、私たちは彼の生き方に触れ、彼の本当の偉大さに心打たれるのです。リンカンは南北戦争に勝利したわずか5日後暗殺されてこの世を去りました。

＜子どもに手渡すときのポイント＞

リンカンの伝記はたくさん出版されています。その中でも今回取り上げたこの本は、出版は古いものの、南北戦争にかけるリンカンの姿を客観的に、絵や写真、演説に関する資料、など豊富に盛り込んでわかりやすく伝えてくれています。ただ、これでは物足りない、というような子どもや、もう少し年齢が上の子どもには、リンカンの生涯全般を物語仕立てで書いたものや、もっと詳しい内容のものを手渡すのもいいかも

しれません。また、まずはこの本を手渡して、興味を持った子どもは1ランク上のリンカンの伝記へと導くと、基礎知識がある分存分に楽しめるのではないのでしょうか？ニューベリー賞受賞の秀作です。ただ、現在は絶版となっていますのでお近くの図書館に足をお運びください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館 吉岡 さやか